

(公社)法皇青年会議所交流誌

クロスロード

Vol.10

2017年11月号



企業見学ツアー

7月1日(土)
ホテルグランフォーレ・各企業

よこうち ひろゆき

横内 博之 (2016年度入会・まちづくり)

2017年7月1日(土)に仕事見学ツアー～新聞記者になって、いろんな仕事を取材しよう!～を開催しました。「労働力人口の減少を食い止めること」と「社会から求められる能力の高い青少年の育成」を事業の目的とし、四国中央市在住の小・中学生128名が参加。12社の企業様に協力をいただき、無事開催することができました。

よくある「ただ工場を見学するだけ」のようなプログラムではなく、「仕事」にフォーカスを当て、各社イキキ働いている従業員の方々から、今の仕事内容の説明、やりがい、どんな力が必要な仕事か?誰の役に立っている仕事なのか?などの内容を話していただきました。また、経営者からも事業の内容や欲しい人物像などお話をさせていただきました。

そして、その従業員や経営者に対して子ども達が自由に取材を行い、これらの内容を元に、子ども達は自宅にて新聞記事を作成するというプログラムで運営を行いました。

1グループにつき3社訪問したことで、1日で多くの社会人との密な接点を持つことができました。また、当日は子どもが楽しそうにプログラムに参加したことが印象的で、アンケートを見る限り、多くの子どもの良い影響を与えることができたのではないかと考えております。

このようなプログラムを継続していくことで、10年後、20年後に四国中央市で働く優秀な若者が増え、産業が発展し続けることと信じています。ご協力いただきました企業の皆様、どうもありがとうございました!



担当委員長からひとこと 福田 慶

本事業は半年ほど前から準備し、企業様・市・ハローワーク・新聞社などにご協力頂き、子供達が楽しめる事業になったと思います。是非、来年も法皇青年会議所が中心となり、四国中央市全体を巻き込み、子供達や企業様の為になるような事業になれば嬉しく思います。

夏まつり恋活

7月16日(日)
新宮少年自然の家

ながの こうき 長野 光樹 (2016年度入会・会員拡大)

今回JCに入会させていただいてから初めての婚活イベントを準備段階から参加させていただきました。

会員拡大委員会の婚活事業は少年自然の家での夏祭り恋活というテーマが決まり、参加者にどのようにして楽しんでもらえるか打ち合わせ段階から委員会メンバーで議論を重ね、結果的に参加者の方々に楽しんでもらえ無事に事業を行う事が出来ました。

私自身初めて準備段階から参加させていただいたのですが、一つの事業を行うにあたり、事前準備の大変さ、恋活当日の対応、片づけ等一つの事業を行う事の大変さが身に染み、今回このような体験が出来た事は非常に貴重な経験となりました。

また、事業前日の委員会メンバー数名での準備に比べ、事業当日は他のメンバーの方々に手伝って頂いた事により準備、片付けのスピードは段違いに早く、大きな事業を行う際の人数の多さも重要だと感じました。

今後も一つの事業を成し遂げる体験を数多く重ねて精進していきたいと思います。

担当委員長からひとこと 藤田 満胤

今回の恋活は夏に開催しました。その意図として普段、出会いがあっても刺激や非日常的な感覚がなく素敵な人に出会っても印象が残らないと思ったからです。そこで、夏祭りの出店をしながら、異性と出会えたら夏の思い出にもなるとも考えました。結果は男女84名に出会いの場を提供できました。前日からの準備に始まり、当日も一日を通してたくさんの方々に来ていただいていたありがとうございました。最高の恋活になったと思います。



四国中央紙まつり

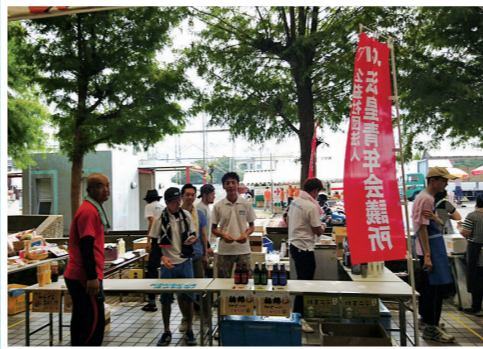
7月29・30日(土・日)
川之江地区商店街内

おいだ しゅうじ
種田 宗司 (2015年度入会・研修副委員長)

朝からの猛暑に、目がくらむ日差し。過酷な一日になることは間違いない。そんな中でもメンバーの使命感に満ちた表情には力強さがあった。むしろ、この過酷な環境を愉しむくらいモチベーションが十分にあった。当日は地産地消をコンセプトに、新宮抹茶ラテや土居里芋コロケ、燧のイワシなどを販売。そして完売。大盛況のうちに二日間を終えた。

思い返せば、本田理事長の一言に端を発する。「四国中央市は紙の街であり、紙まつりはそれを象徴するものである。だから、紙まつりを盛り上げることは街の発展に通ずる。」と。紙の街を『「魅力ある紙」の街』にするためにも、『魅力ある「紙の街」』にするためにも我々は頭を捻るべきなのだ。街の構成要素は人・文化(歴史)・産業であろう。紙は文化にも産業にも関わるもの。紙発展に寄与し、その中で人として成長し、街を発展させる。これほどわかりやすいロジックは他にはない。

この街に紙という基幹産業が深く深く根付いていることに感謝し、そして恩返しの意味でも紙に関わる事業を継続的に行っていくことが我々に求められている使命ではなからうか、とつくづく感じた事業であった。



JC杯学童軟式野球大会

9月2・3日(土・日)
三島グラウンド・やまじ風公園

いしむら よしあき
石村 義哲 (2016年度入会・財務理事)

9月2、3日、第4回目になりますJC杯学童軟式野球大会が行われました。

毎年恒例となってきましたが、計画段階から今年は何か変わったことをしようと言う事で話し合いが進められておりました。

近年、野球人口が減ってきており全国的に見てもチーム自体が減少している状況にあります。そんな中、今回参加していただいたチームの中には、人数は9人に満たないがチームを存続させ日々の練習をし、練習試合では他チームの選手に協力してもらい頑張っているチームがありました。本来であれば、主要な大会には参加出来ませんが、この四国中央市で野球を頑張っている少年少女が、未来に夢を描けるきっかけになってほしいという思いもあり参加していただく事になりました。

僕は、自分の子どもが選手として参加させていただいている事もあり、初日は審判として、2日目は準決勝・決勝戦、閉会式まで携わらせていただきました。その中で、監督・コーチの熱い指導、保護者の方の熱心に応援している姿、そして何よりも、閉会式後に自分たちの背丈ほどであろうかという優勝トロフィーの周りで目を輝かせてさせている子ども達の姿を見て、野球人口が減り、チームが減少している中ですが、明るい希望も感じる事が出来ました。今後この大会が更なる子ども達の成長に寄与することを願っています。



ハロウィン恋活

10月28日(土)
アマルフィー

いまむら まちこ
今村 真知子 (2015年度入会・広報副委員長)

今年最後の婚活事業として、広報委員会でハロウィン恋活を開催いたしました。これまで行われた婚活事業を踏まえ、日本でも認知度が高まってきているハロウィンと婚活を合体させて、盛り上げられるよう企画いたしました。今回は、出会いを大切に、参加して下さった皆様が楽しんでくれるようダンスや歌、バルーンアート等を積極的に取り入れ、スタッフも仮装し、生き生きと活動できていたと思います。

又、当日は他の行事や台風とも重なってしまった中、緒先輩方を始めスタッフの臨機応変な対応により、無事開催することが出来ました。

参加者60名男女ともにコミュニケーションがとりやすい会場のスペースで、恋発見器や、フォトスポットを準備し、仮装コンテストも行いました。参加者も和気あいあいと楽しそうな雰囲気に包まれていました。料理やデザート、景品等細部までハロウィンに合うように工夫し、準備することが出来ました。今回の事業では、ポスターやコスモステレビでの宣伝その他、メンバー及びビシニアの方々には大変お世話になり、無事終わることが出来ました。心より感謝申し上げます。

かじ あやこ
担当委員長からひとこと 加地 彩子

広報委員会では珍しく一般人を対象とした事業を行いました。私自身、ハロウィンが好きで、ハロウィンの楽しさが男女の出会いにも活かさればと、このような企画に至りました。事業を通して、みんなに協力していただき、人への感謝とマンパワーの素晴らしさを学ばせていただきました。恋活としては、大変盛り上がり、少子化対策につながる素敵な出会いの場を提供できたと思います。



7月～10月活動報告

★7月
1日 企業見学ツアー
15日 四国地区大会(東かがわ)
16日 夏まつり恋活
26日 例会・総会
29～30日 紙まつり

★8月
6日 理事長杯(じゃがいもクラブ)
25日 例会

★9月
2～3日 JC杯学童軟式野球大会
26日 例会
9月28日～10月1日 全国大会(埼玉)

★10月
26日 スポーツ例会
28日 ハロウィン恋活

新入会員紹介



A-ONE かわさき 川崎 まさつぐ 真次(33歳)

皆様こんにちは、dance・音響をさせていただいてる川崎です。昭和59年に生まれ川小・北中・土居高を卒業し、3年間地元で仕事をして、5年間東京でダンスの勉強などし、さまざまな結果を残して地元に戻ってきました。(個人dance大会優勝5回準優勝2回・団体dance優勝3回準優勝2回PV出演やイベントのショーケースゲストに呼ばれるなど)そして、新居浜でstudioを立ち上げ、8年間の月日が経ちました。今では三島・豊浜などでもレッスンを行っています。

趣味は音楽を聴いたり位で他はなしです。人見知りではありますが 慣れたらすごく話します。ただ、図にのると度が過ぎるので皆様ストッパーをよろしく願いいたします(笑)

JCに入るきっかけになったのは大平さんに声をかけていただき、いろいろ心配されながら背中を押していただきました。地域貢献や人の為に動けるとの事で魅力を感じ頑張らせていただきたいと思います。役にたつかわかりませんがいてよかったと思っただけのように頑張ります。



株式会社evoevo わたなべ 渡邊 まさのぶ 雅信(38歳)

いつもお世話になっております。evoevoの渡邊雅信です。

1979年(昭和54年)5月18日生まれ、生まれも育ちも四国中央市(旧伊予三島)です。三島高校卒業後、大阪あべの辻調理師専門学校奈良(株)菊水楼に入社約5年務めた後横浜(株)フォーシーズンジャパン(SUBZERO)に入社約2年務めた後、都内飲食店地元でもぶらぶらとフリーター生活をしていました。地元(株)石松に入社のちに2011年evoevoを開業、2015年地元を微力でも盛り上げたいと思い現在の場所に移転しました。

昔から何やっても不器用な私でしたが、唯一飲食業の世界だけが好きで続いた職業でした。30歳前にフリーターという最下層の生活をしてた私がJCに入っているのかと、ずっと思っていました。いつもお世話になっているという事もあり、後いつか都内に飲食店を開業したいと気持ちがあり、そのために入会し色々な経験や考え方を学びたいと思いました。

evoevoと言う意味はevolution×2でevoevo常に進化し続けるという意味です。不器用な私ですが、至らない点のいっぱいあると思いますが入会したことに地域活性や自分自身が少しずつでもevoevoできるよう頑張ります。よろしく願いいたします。



JAうま農業協同組合 いしむら かずや 石村 和也(36歳)

皆様こんにちは。うま農業協同組合(以下「JAうま」という)の石村和也と申します。

昭和56年1月3日生まれ、川之江高校出身です。大学は広島県に行きましたが、生まれ育った四国中央市で仕事がしたいと思い、現在のJAうまに入社し、早15年経過しました。

これまでは、営農部で営農指導員の経験や、金融部での金融商品の企画立案、また2年間松山の愛媛県中央会に出向し、主に県下JAの財務や法務に関する相談業務を行い、平成27年度より現在の、総務部総務課で経理の仕事をしております。

趣味は、美味しいものを食べ歩きすることです。和食・洋食・中華、何でも結構ですので、皆様が美味しいと思うお店がありましたら紹介をしていただければと思います。

私が、JCに入るきっかけは、役員の紹介ではありましたが、私自身も、JAうまの経営理念でもある「地域社会との共生」を実現するべく、JCという地域に根差した組織で他業種の方と共に勉強し、活動をしたと考えたからです。

最後に、至らない点多々あるかと存じますが、ご指導・ご鞭撻のほど何卒よろしくお願いいたします。

CROSS

-現役メンバーとシニアクラブを紹介-

FROM 現役メンバー

こんなメンバーいます!だまだ知らない一面を知りたい

『ONE FOR ALL ALL FOR ONE』

2015年度入会 なかもら 中村 えいご 英悟

こんにちは。朝日生命保険相互会社の中村英悟です。弊社は明治21年3月に帝国生命保険として創業し来年3月で130年を迎える、日本で2番目に長い歴史を持つ生命保険会社です。そこで、今回は生命保険の歴史と理念をテーマにお話しさせていただきます。

生命保険という仕組みは1400年代のヨーロッパに起源を遡ると言われていますが、当時から今と同じように相互扶助の精神に基づき発展していったようです。

ところで、日本にこの生命保険の仕組みを紹介したのは、実はあの福沢諭吉なんです。(さすが1万円札の顔になっただけはありますね!お金に縁が深い!)1868年に著書の「西洋旅案内」の中で、近代保険制度を紹介したことが発端となりました。

そして、日本では発祥の地であるヨーロッパ以上に発展し、平成28年度末には年換算保険料が27.4兆円にまで膨らみ、超巨大産業に成長しています。

様々な要因があったのだと思いますが、私は日本で生命保険が定着したことは偶然ではなく、必然であったと思っています。なぜなら、日本では古くから生命保険に近い仕組みが形成されており、現在でもこの風習は日本全国で冠婚葬祭時の祝儀や香典といった形で引き継がれています。

香典を例にとってみると、元々は農村部で遺族への支援の意味を込めて、食料を送る慣習が発展したと考えられています。また、私の好きな武将でもある石田三成も「大 一 大万 大吉」という旗印で「一人は万民のために、万民は一人のために尽くせば、天下の人々は幸福(吉)になれる」という理念を表現していました。つまり、「一人はみんなのために、みんなは一人のために」という精神が日本人の中には自然に出来上がっていたのだと思います。ちなみに、アメリカの葬儀では現金ではなく、お花にメッセージを添えて渡すことが一般的です。

私は生命保険という仕組みは「巨大な互助会制度」だと思っています。生命保険の保険料は「多くの皆さんからお預かりした保険料が、困っている人を助けるのに支払った保険金と同額となる」ように設計されています。

まさに、「ONE FOR ALL ALL FOR ONE」の精神ですね!皆さんがお支払いしてくださっている生命保険料は、自分のためにならなくとも、誰かの生命や暮らしを守っていることになると考えたら、普段、何気なく保険料だけ払っている生命保険にも、大きな意義を見出せるのではないのでしょうか。

FROM シニアクラブ

株式会社三島機帆船運送商会 代表取締役 ^{つちや}土谷 ^{ひろや}浩也

26歳の時に、結婚を機に地元へ帰り現在に至っております。帰郷後すぐに先輩の紹介でJCに入会しました。2～3年目位から1年間程、スリーピングしておりました。復活後、理事を数年間務めさせてもらった後、卒業年度に5代目理事長を仰せつかりました。その間に、JCの統合がありましたが、その時の実行委員長も務めました。

現役時代には様々な経験をさせてもらい、行政合併に関しても重要な立場で、JCとして関わらせてもらいました。全て、JCの組織あっての事、そして今があるのもJC活動を行ってきたおかげであると感謝しております。

■会社紹介

長い社名ですが、もともとは内航海運関係の仕事をしていたのですが、昭和39年に現社名で法人化し、貨物運送事業を営んでおります。北海道、東北地方以外へ地元製品を直送便で届けております。

■現役の皆さんへ

卒業してみて気付く事ですが、JCの組織のもっている力がいかに大きいかという事です。メンバーの意識の持ち方、向上心、また対外的に与える影響力、全てJCという組織があっての事です。その組織の中だからこそ出来る事がたくさんあります。勇気をもって、まちづくりに取り組んでもらいたいと思います。

また、諸先輩方も言われている事ですが、JCで培った人脈は人生にとっての宝物であるという事も、付け加えさせていただきます。

これからの予定

★ 12月2日(土) 2017年度卒業式・納会

場所:グランフォーレ 19:15～卒業式 / 20:15～納会

—2017年度卒業生—

鈴木太郎君、大尾博文君、高橋督佳君、中西知足君、星川洋平君、本藤賢二君、毛利治正君

ご協力どうもありがとうございました

作成編集:広報委員会【委員長:加地彩子】

今村真知子、橋本賢蔵、窪田佑輔、合田武史、鈴木太郎、曾我部達也、中西知足、中村英悟、三好宏和、毛利治正、大西祐輔、川崎真次、

ホームページ <http://www.hohoh-jc.jp/>

Facebook <https://www.facebook.com/hohoh.jc/>

ブログ <http://ameblo.jp/hohohriji/>